

小児看護学方法論Ⅰ	2年・前期	2単位	講師 宮澤由佳 他
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33210742

1. 授業のねらい・概要

健康障害をもつ子どもと家族を含めた看護の基本となる概念と援助について学習する。また、一人ひとりの子どもの権利を擁護し、子どもに安全で安楽なケアを提供するための、根拠に基づいた看護援助について学習する。

2. 到達目標

1. 子どもと家族との援助関係が理解できる。
2. 子どもの発達段階を考慮したアセスメントが理解できる。
3. 子どもの発達段階を考慮した看護技術が理解できる。
4. 検査・処置を受ける子どもと家族の援助が理解できる。
5. 健康障害を持つ子どもにとっての遊びの意味と必要性が理解できる。

3. 授業の進め方

講義・演習を行う。視聴覚教材およびグループワークを取り入れ、内容理解を深める。自己学習ができるように課題を与える。

4. 授業計画（演習）

1. 援助関係を形成する技術 (宮澤由佳)	8. 小児看護技術③ (宮澤)
2. 身体のアセスメント① (市村路子)	〈症状生体機能の管理技術, 救急救命技術〉
3. 身体のアセスメント② (市村)	9. 小児看護技術④ (宮澤)
4. 症状を示す子どもの看護① (宮澤)	〈環境調整技術, 安全・安楽を確保する技術〉
5. 症状を示す子どもの看護② (宮澤)	10. 小児看護技術演習① (宮澤)
6. 小児看護技術① (宮澤)	11. 小児看護技術演習② (宮澤)
〈食事援助, 排泄援助, 清潔・衣生活援助〉	12. プレパレーション演習① (宮澤)
7. 小児看護技術② (宮澤)	13. プレパレーション演習② (宮澤)
〈呼吸・循環を整える技術, 与薬技術〉	14. プレパレーション演習③ (宮澤)
	15. プレパレーション演習④ (宮澤)

5. 成績評価の方法・基準

定期試験（受験資格は2/3以上出席した者）70%，レポート課題等30%で総合的に評価する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 メディカ出版

ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 メディカ出版

参考文献：ナーシング・グラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護 メディカ出版

系統看護学講座 小児看護学1 小児看護学概論・小児臨床看護学総論 医学書院

系統看護学講座 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準ずる程度の具体的学習内容

次回講義内容のテキスト該当箇所の予習（30分程度）と復習（30分程度）をすること。

8. 受講上の留意事項

小児看護学概論の学習内容と関連させ主体的に参加することを期待する。小児看護学実習の先修科目である。

遠隔授業：オンデマンド型の場合は、1回分の内容を最後まで見ること。

対面授業：遅刻、欠席ならびに授業中の私語、許可のない教室の出入り、授業に関係のない言動は慎むこと。

9. 課題に対するフィードバックの方法

提出された課題は教員がないようを確認し、内容の不備があるものは再提出を求める。

試験実施後に解答を口頭で説明するか解答を掲示する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり，修得できない場合進級不可となる。

11. 実務経験のある教員等による授業科目

医療機関における看護師としての実務経験を活かして，講義・演習を行う。